

公益財団法人日産財団 第8回理科教育賞の選定〈講評〉

選考委員長 長谷部伸治

日産財団は、「理科教育助成」対象校に選ばれ、理科教育の創意工夫に富んだ実践研究課題に2年間取り組んだ幼・小・中学校、教育研究会等の中から、理科教育の質の向上に資する優れた研究成果をあげた助成校に「日産財団理科教育賞」を贈呈している。本年度は、2017年度に「理科教育助成」対象校に選ばれ、2年間（2018. 1. 1～2019. 12. 31）の取り組みを終えた神奈川県15校、福岡県8校、栃木県4校、福島県8校、合計35校から提出された中間報告書と最終成果報告書をもとに、選考委員会において第一次書面選考および第二次選考を経て、第8回理科教育賞候補4校を選定した。

今回最終報告をされた対象校においても、ICT機器を活用した教育やプログラミング学習に関する成果が多く見られたが、年々その内容が深化しており、単にICT機器を導入すると言う段階から、ICT機器の長所・短所を理解して、より高い教育効果が期待できる分野への利用、およびICT機器の利点を生かした指導法の開発という段階に来ていると感じられた。本年度は、COVID-19対策として、教育賞候補4校による成果発表会を2020年9月17日にオンラインで開催し、理科教育の実践を通じて優れた成果をあげた1校を『第8回理科教育賞 大賞』、残りの3校を『第8回理科教育賞』に認定した。

選考委員会が選んだ理科教育賞候補4校を除く助成校の成果は、ポスターセッションで報告された。今回は、現地でのプレゼンがなくなった代わりに各校が「参考資料」を1枚作成し参加者が閲覧できるようにすることで、それぞれの取り組みの特徴をPRできるようにした。このポスターセッションにおいて、全助成校教員や関係者のウェブ投票により、『第8回理科教育賞 ポスターセッション賞』を選定した。

各賞受賞校は以下の通りである。

【第8回理科教育賞 大賞(楯と副賞100万円) 1校】

下野市立祇園小学校: 授業観察用シートをうまく利用した、教育スタイルの確立による教師の指導力向上活動や、書き方の型の定着による「論拠を示して書くこと」を通じた論理的思考力向上活動、さらにタイムラプス機能を使った教材開発などの ICT 機器の機能の活用などの精力的な活動を高く評価する。また、これ

らの活動について、実践成果を定量的に検証している点も評価できる。

【第8回理科教育賞(楯と副賞50万円) 3校】

横浜市立南本宿小学校：教育活動の柱としてESDに焦点を当て、それに基づき各教科のどの場面でどのような資質・能力を育成できるかを明確にしてカリキュラムを構築している点、およびそのカリキュラムに合わせ学校行事も見直している点など、教育改革に意欲的に取り組んでいる姿勢を高く評価する。

北九州市立曾根東小学校：地域の自然環境を生かした環境教育の実践を高く評価する。理科を中心として、数多くの授業実践や活動を蓄積し、子供の姿に照らしてその効果を検証している点も評価できる。また、残された課題も具体的に整理されており、その解決を目指し活動を継続されることを期待したい。

いわき市立小名浜第三小学校：ICT機器の活用法として、単に可視化するのみでなく、「何度でも見返す」ことを重視し、児童の思考の深化を狙った研究・活動として、高く評価できる。多様な単元について、思考の可視化の効果を、導入、展開、終末の各ステップで整理し、検証している点も評価できる。

【第8回理科教育賞 ポスターセッション賞 (楯と副賞20万円) 1校】

いわき市立小名浜東小学校：投票者からは、「言語活動や地域人材の活用といった点への着目」、「新学習指導要領に関連した内容」、「子どもの視点にたった4つの具体的な手立て」、「主体的な学びによる思考力を高めるための取り組み」等に対して評価するメッセージが寄せられており、幅広い実践を高く評価する。